

令和6年度秋田県職業能力開発審議会の要旨

【日 時】 令和7年3月17日（月） 午前10時～正午まで

【場 所】 秋田県庁 議会棟2階 特別会議室

【出 席 者】 学識経験者：江畠委員、鎌田委員、佐藤（賢）委員、山本委員
事業主代表：雑賀委員、高橋委員、田村委員、深川委員、堀江委員
労働者代表：小玉委員、後藤委員、佐藤（奈）委員、牧野委員
特別委員：今野（将）委員、久慈委員
事務局：石川産業労働部長、中嶋雇用労働政策課長ほか関係職員

【概 要】

1 開 会

2 秋田県産業労働部長あいさつ

3 委員紹介

4 秋田県職業能力開発審議会会長あいさつ

5 議 事

（1）報告事項

①第11次秋田県職業能力開発計画における職業能力開発事業の実施状況について

②令和7年度職業能力開発事業実施計画について

（2）その他

①第12次秋田県職業能力開発計画のスケジュール（案）について

はじめに、（1）報告事項について事務局から説明後、質疑応答を行った。続いて（2）その他について事務局から説明後、質疑応答を行った。

なお、質疑応答等の主な内容は以下のとおりである。

[報告事項]

○ 秋田で技能を習得したのであれば、ぜひ県内、地元に就職して欲しいと思います。大曲技術専門校は建築施工科以外は、県内就職100%と他の校と比較しても高い県内就職率となっていますが、校と企業とのつながりなど何かあって県内就職する方が多いのでしょうか。

→ 大曲技術専門校は昨年度は全科で県内就職100%でしたが、やはり個々の生徒の希望によるものとなります。なお、建築施工科の生徒の県外就職した理

由については、首都圏勤務が希望で、関東方面の営業所での新入社員研修が1年間～数年間と手厚いことなどを理由として挙げているようです。

各技術専門校では、できるだけ県内就職ということで、県内企業でのインターンシップを行うなど指導しているところです。

○ 特に建築関係の訓練科について、入校者が少なく非常に危機感を感じています。実際に大学進学率の上昇や少子化は否めない事実ですが、子どもへのPRだけではなく、保護者に将来性などを説明したりPRすることで、入校者を確保していただければと思います。

→ 技術専門校の入校者を増やすため、保護者へのアプローチは強化したいと考えております。保護者や学生等に技術専門校に実際に来ていただくテクノスクールフェアについても、今年度は昨年度よりも多く2百～3百名ほど足を運んでいただきました。引き続き、きめの細かいPRをしていきたいと考えております。

○ 今は、様々な業種において、デジタル人材が貴重な存在になっており、今後はもっと必要になると思います。私たちの会社でもDXを推進していますが、そもそも人材がおらず、DXの勉強をしてはいますが、やはりちょっと無理があります。秋田技術専門校には情報システム科がありますが、デジタルを学ぶコースをもう少し増やしたほうがいいのではないかと思います。

→ 指導員の確保や設備整備の面等で課題があるため、学卒者向けの2年コースは秋田技術専門校の情報システム科のみとなっています。

そのほかにも、在職者向けに2日間程度で、学び直し・スキルアップとして生成AI等のデジタル訓練も実施しております。

○ 離職者を入校のターゲットにしてはどうかという意見がでましたが、例えば高卒で県外就職後に離職して秋田に戻ってきた方たちが果たして技術専門校に入校するのだろうかと思います。

2年もかけて技術専門校に行くよりも、短期の職業訓練で技術を少し身につけて就職をしようと考える方が多いのではないかと思います。

→ 離職者向けの短期間6ヶ月程度の職業訓練については、技術専門校のほか、ポリテクセンターでも実施しております。

学卒者向けの2年コースの職業訓練につきましては、一旦就職して離職された方も入校されていますが、数としては少ない状況にあります。

しかしながら、入校生の確保のため、いわゆる既卒、第2新卒の方に対しても、例えば各技術専門校が入校生募集のため高校を訪問した際に、進路指導の先生に対して卒業生から相談があった場合には、ぜひ技術専門校を薦めて欲しいということでお願いしているところです。

- 技術専門校は、在職中の方を入校させるということは可能なんでしょうか。高卒等で採用して、これを勉強して欲しいというときに在職者が入れるようなシステムがあれば非常にありがたいと思います。
- 学卒者向けの2年コースの職業訓練につきましては、在職中の方は対象としておりません。
- なお、在職者を対象とした2年間の職業訓練は、認定職業訓練といって職業訓練法人で行っている職業訓練がございます。
- 技術系の産業に人材を確保するというところが喫緊の課題と感じました。この審議会で検討すべきような範疇の部分については、それぞれよく検討されて、取り組んでいただいていると感じました。
- 人材の確保については、様々な切り口での人材の活用というのは当然大事ですが、やはり新卒者や子どもなど、若い方が技術系の産業に目を向けてくれるというのが、本来は大事だと感じております。
- 県外就職の理由が賃金であったり、都会で大きな仕事をしたいという話もありましたが、若い人の夢というのはその産業の中だけで実現するものではなく、友達がいるとか、家族がいるとか、自然があるとか、いろいろな価値感があつて、産業の問題だけではないと思います。秋田県がやってる人口対策等を総合的に進めていく中で、秋田の会社に就職をすれば、こんな夢が達成できる、その夢というのは必ずしも仕事を通じたことだけではなく、いろんな形でそういう環境があるということを、関係者が知恵を出し合って発信していくことが大事なのではないかと感じました。（意見のみ）

[その他]

- 人口減少や高校生が減っているということは分かりますが、こんなに素晴らしい職業能力開発校があるのであるのだから、第12次秋田県職業能力開発計画の策定に向けたアンケートの実施にあたっては、入校しない理由のほか、入校した方にはどんな魅力があるのかについてアンケートをしていただいて、もう少し入校していただけるように魅力を高めていただきたいと思います。
- いただいたご意見を踏まえながら、第12次秋田県職業能力開発計画の基礎となるものですので、しっかり調査していきたいと思っております。
- なお、高校生に対するアンケートでは、進学についてどういった希望をしているか、選んだ理由やそういった希望を決定した時期なども調査項目として入れて、入校生の募集に関する広報時期はいつ頃が適正かというところも見ていくたいと思っております。